

会 議 録

会議の名称		令和元年度第2回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時		令和2年3月17日（火） 開会15:30 閉会17:00
開催場所		つくば市役所 5階庁議室
事務局（担当課）		政策イノベーション部 持続可能都市戦略室
出席者	委員	・一般社団法人つくば観光コンベンション協会 副会長 市川 一隆 ・つくば市商工会 会長 桜井 姚 ・つくば市農業委員会 会長 高谷 榮司 ・つくば市谷田部農業協同組合 総務企画部長 糸賀 俊宏 ・イーディーエル株式会社 代表取締役 平塚 知真子 ・筑波学院大学 学長 望月 義人 ・国立大学法人筑波技術大学 産業技術学部総合デザイン学科 教授 生田目 美紀 ・国立大学法人筑波大学 副学長 BENTON Caroline Fern ・つくば市PTA連絡協議会 会長 根本 一城 ・つくば市福祉団体等連絡協議会 会長 後藤 真紀 ・つくば市ボランティア連絡協議会 世話人代表 星埜 祥子 ・特定非営利活動法人ままとーん 理事 中井 聖 ・一般財団法人つくば市国際交流協会 理事長 小玉 喜三郎 ・公益財団法人つくば文化振興財団 常務理事 宇津野 茂樹 ・株式会社常陽銀行 研究学園都市支店長 小河原 公男 ・茨城県社会保険労務士会 副会長 山崎 満 ・つくば市シルバー人材センター 理事長 宇都宮 章 ・日本労働組合総連合会茨城県連合会 事務局長 猪俣 弘一 ・株式会社茨城新聞社 土浦・つくば支社長 菊池 克幸 ・一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス 理事兼業務部長 小山 幹治 ・日本放送協会水戸放送局 局長 中原 常雄 ・筑波大学全学学類・専門学群代表者会議 瀬邊 風馬 ・大穂地区区会連合会 会長 川根 義行

		・桜地区区会連合会 会長 一色 喜美子 ・谷田部地区区会連合会 会長 飯田 哲雄 ・荃崎地区区会連合会 会長 小原 正彦 ・つくば市議会 副議長 山本 美和 計 27名		
その他	オブザーバー つくば市副市長 毛塚 幹人 つくば市副市長 飯野 哲雄			
事務局	森政策イノベーション部長 片野政策イノベーション部 次長 大越企画経営課長、課員 5 名 吉岡持続可能都市戦略室長、室員 3 名 各部等の次長			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	2 名
会議次第	【全体会議】			
	1	開会		
	2	議事		
		(1) 令和元年度まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について (2) 地方創生推進交付金事業の進捗状況について (3) 第2期つくば市戦略プランについて (4) その他		
	3	閉会		

1 開会 ○政策イノベーション部長 それでは、定刻となりましたので、令和元年度第 2 回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。 お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。政策イノベーション部長の森でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この有識者会議は、平成27年度に立ち上がりまして、この3月末までの任期となっております。今回の会議は、令和元年度に実施いたしました地方創生の取組について評価を実施いたしましたので、その御説明をさせていただきまして、それを踏まえて御議論いただきたいというふうに思っております。

また、第1期の総合戦略は今月で終了となりまして、4月からは、第2期つくば市戦略プラン、こちらと合わせるような形で第2期がスタートいたします。本日の議事（3）の中でも、現総合戦略の各基本目標が次期の戦略プラン、第2期戦略プランのどの部分に反映されているかということについて御説明させていただきますので、今後の進捗管理を見据えた御議論をいただければというふうに思っております。

それでは、開会に当たりまして、副市長の毛塚より御挨拶申し上げます。

○毛塚副市長

こんにちは。本日はお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略も今月末で最終となります。4月からは、第2期つくば市戦略プランが、このまち・ひと・しごと創生総合戦略を引継ぐ形となっていきます。

本日は、総合戦略の最終年である5年目が終了するに当たりまして、最終年度である令和元年度の各種取組状況を事務局から説明させていただくとともに、今後の方向性について、第2期総合戦略に引継ぐことになります未来構想・戦略プランについて御説明させていただきます。

未来構想・戦略プランでは、SDGsの理念を取り入れて作成した「持続可能都市ヴィジョン」をベースといたしまして、まちづくりの基本理念に「つながりを力に未来をつくる」こういった理念を据えまして、2030年に目指すまちの姿を四つのヴィジョンで表現しております。今後、こういった取組を進めるに当たっては、有識者会議の皆様の専門性から、お力をお貸しいただくことになるかと思いますが、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

2 出席者紹介

○政策イノベーション部長

続きまして、本日の御出席者を御紹介いたします。前回会議以降に新たに委員に御就任いただきました方がいらっしゃいますので、御紹介させていただきます。

※出席者の紹介

それでは、早速議事に入りますが、ここからは、つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第5条第3項に基づきまして小玉座長に議長をお願いいたします。小玉座長よろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 令和元年度まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

(2) 地方創生推進交付金事業の進捗状況について

○座長

皆様こんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今、御説明いただきましたように、本日は、令和元年度の1年間に実施した、まち・ひと・しごと創生事業の進捗状況を御確認いただくということになっておりますが、先ほども御説明がありましたように、この後、次のプランに引継いでいくという意味も込めまして、御議論いただく点としては、できましたら次のプランにどのようにつなげていくべきか、というようなことについても御意見いただければというふうに思います。

それでは早速ですが、議事に入ってまいりたいと思いますが、お手元の次第の(1)と(2)が関連しておりますので、まとめて進めてまいりたいと思います。(1) 令和元年度まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況と、それから(2)の地方創生推進交付金事業の進捗状況について、一括して事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局 (資料1-1から2-2までの概要を説明)

○座長

ありがとうございました。大部な資料を事前にお送りいただいておりますの

で、御覧になっておられると思います。今、二つ御説明いただきましたが、前半の資料1のシリーズの部分と、資料2の部分と分けまして、前半のところで附属の資料もたくさんございますが、それを含めて、どこからでも結構ですので、御質問あるいは御提案等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

○委員

保育所の待機児童数のところですけども、資料1－4のⅡの①－4です。これでちょっとお聞きしたいのですけれども、かなり定員拡充を図っているということで、御努力いろいろありがとうございます。

それで、詳細はよくわからないのですけれども、民間の企業に、例えば、カスミさんとかが保育所をつくった場合は、やはりそういう民間に協力いただいて待機児童数を解消するということで、それは実数に計上になっていくのでしょうか。お聞きしたいと思います。

○座長

よろしくお願いします。

○こども部 次長

こども部でございます。おかげさまで、つくば市におきましては、民間の企業、社会福祉法人や株式会社が創設する際に、こちらで補助金対応もして、大分定着していただきました。もちろん定員に関しましても、待機児童数が数値目標の対象になっておりますので、定員が増えれば待機児童数が減るのですが、それにも増して流入が大きいので、待機児童数が減っていないというのが現状でございます。

○座長

よろしいですか。これについては、また、後ほど戦略プランとも関連して御説明いただきたいと思います。

○委員

わかりました。

○座長

ほかにございますか。大部なので大変ですけども、どこからでも結構です。どうぞ。

○委員

つくばでは、ロボットと再三言われているようですから、どうやって子どもたちを呼び寄せていって、その子どもたちをつくばに移住・定住してもらえるかみたいなことを考えています。今から14年ぐらい前になるのですが、山海先生も一緒にしたけれども、ロボットが今日までになるまでの経過の博物館をつくる必要があるというふうなことを提案してあります。ぜひ、これをつくばで実現してほしいと思っています。

それは子どもたちを呼び寄せる大きな目玉になると思いますし、経過が一目瞭然になるとわかりやすいです。初期の段階から今の段階まで、博物館として創立するという動きを、ぜひ国に向かって働きかける必要があります。

もう一つ、農産物について、資料2-2に地産地消レストランの紹介と書いてありますけれども、地産地消だけではやっぱりだめだと思います。ぜひ農産物の免税店をつくることです。この農産物の免税店は、国のいろいろなところになんか相談しないとなかなか前に進まないだろうと思うのです。だから、つくばの中で、農産物を、地産地消だけではもうだめな段階に来ているというふうに思います。観光客をどうつくばに呼び込むかということを考えるべきです。

ですから、農産物の免税店、一番わかりやすいのは米だと思います。それから果物、これらの物を国からしっかりと免税店で販売できるという許可をとることです。これは、かなり大変かなというふうに思いますけれども、やっていないところもないわけではないので、ハワイなどはパパイヤをちゃんと土産品としてどんどん出していますし、いろいろな農産物が海外に出ていく必要があると、日本のアピールにつながっていくというふうに考えられます。

○座長

ありがとうございました。

資料2-1の1ページ目の、先ほどのロボットのことでですね。それと資料2-1の2ページ目の地産地消レストラン事業等と御提案をいただきましたけれど

も、資料２－２も含めまして御議論いただきたいと思います。これについては、後ほどの戦略プランとの関連で何かつなげていくというようなこともございますでしょうか。もし御説明できることありましたら。後ほどでもいいですか。今、一つの御提案ということでしたので。

○委員

提案ではなくて、実現に向けてやってください。

○政策イノベーション部長

今御提案いただいたので、戦略プランは後でまた議論する時間がありますけれども、今日は、担当部の次長が来ていますから、今いただいたことについては、内容をしっかり部の中で持ち帰って御検討いただければと思います。

○委員

ロボットの博物館は文部科学省の所管ですか。

○政策イノベーション部長

博物館は文部科学省の所管になっていきますけれども、ロボットの博物館というものについて、何か特別な検討をされているかという、私は承知しておりません。

○委員

急いでやったほうがいいです。そうすると、子どもたちを呼び寄せる大きな目玉になります。

○政策イノベーション部長

ありがとうございます。

○座長

子どもたちというのがポイントなのかもしれませんね。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員

資料１－４並びに資料１－５の、つくば市内からの若者の年間転出者数の増加数抑制及びそれに関連し、資料１－７の38ページのインスタグラム等のSNSの発信について御質問と御提案をさせていただければと思います。

まず、大きくくりなところとして、年間転出者数の増加数抑制というところで、おそらく大学生あるいは大学院生の卒業・修了後に、つくばに残ってもらおうというようなことを中心に御検討いただいているものと推察するのですが、課題の中でブランドイメージの向上を図ったり、それを広報したりというところもあるのですが、大学生の立場からしますと、当然、つくばの魅力というのは、なかなか伝わってくるSNSの媒体も弱いので、それについても後で指摘させていただきたいのですが、どちらかというところ、つくばに卒業後住んでちゃんと安定して生活ができるかというところをやっぱり重視しているというのが普通に現実的な大学生の感想となります。ということで、どちらかというところ就職先の確保のほうを優先して事業を進めていただきたいと考えておりまして、つくばの大学生は、大学院に進む理系の学生も多くて、特に博士を取得するというようなレベルまで達した学生の就職先が、なかなかつくば市内に無いというような悩みを我々としても聞いておりますので、企業の誘致を含めた就職先の誘致ですとか、そういったところも御検討いただければと思います。それについて、現在どのような形で御検討されているのか、まずお聞きしたいと思います。

○座長

いろいろな分野に関わっていると思いますけれども、よろしいでしょうか。

○市長公室 次長

市長公室です。こちら東京圏からつくば市内への転入者数の増加、または若者の転出を抑制する、そういった施策を担当しています。やはり東京圏は、今年、転入超過が3年連続で拡大しているということで、どんどん高水準の教育や高待遇の求人を求めて若者が出ているという状況は続いています。ただ、そういう中でも、つくば市は、転入者数が全国14位で、ある程度抑えられていると考えております。

やはり市のプロモーションと考えますと、子育て、出産、教育、就職、医療、

介護とライフサイクルをトータルで見てつくば市の優位性をアピールするということを広報としては考えてやっています。

ただ、今、委員がおっしゃられた就職に関しましては、この基本目標でも①－1の新規就業者数の増加、または新規創業数というところで、市でも、就職に関する取組を進めております。また、そのほかにも今回の資料の中に、産業振興関係の事業が様々含まれています。そういったところで、つくば市の就職状況の好転、または活性化そういったものをPRしていきたいというふうに考えております。

○委員

ありがとうございました。ぜひ就職先の確保、充実に向けて御検討いただければと思います。

続いて、同じところで、SNSの情報発信について、各論の②－38、Instagramのところについても絡めて御質問というか、御提案させていただければと思うのですが、大学生の立場として、Instagram等、事前に拝見させていただいたのですが、概ね写真の投稿等も頻度もすごく多くやられていらっしゃるって、すごく見応えがあっておもしろいなという印象を抱いていたのですが、やはりまだ、少し堅い雰囲気といいますか、そういったところというのは見ていて否めないところがありました。Instagramにはストーリーという機能、動画を投稿するという機能があったりするのですが、そういったところで余り多くの色を使っていないとかに要因があるものかと思われます。

具体的な好例としては、首相官邸のInstagramがすごくそういったところで対策をしているので、参考にさせていただいたりですとか、あるいは、それこそ、筑波大学を含めて芸術を学ぶ学生というのもつくばには大変多く存在していますので、そういった大学生等の連携を含めて御検討いただければと思います。

また、もう一つなのですが、筑波大学に限った話で言いますと、実は学生はInstagramも確かに利用者数が多いのですが、ツイッターの利用者数が大変多いというような特徴を持っています。つくば市のツイッターの関連のアカウントも、いろいろ災害情報等含めて存在しているということは承知をしているのですが、ホームページの更新に関する情報ですとか、事務的な更新に留まっているのかなというのが見た印象になりますので、そういったところ

の発信についてもインスタグラム同様、強化していただいたほうが、特に筑波大生に関しては魅力というのが一番伝えられるところになるのじゃないかなというふうに考えております。

○座長

ありがとうございました。やっぱりつくばの一つの強みですね、筑波大学等若い人達がたくさんいるという、これはぜひ徐々に伸びてはおりますので、さらにこれを加速していただくという御提案だと思いますので、ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。（１）と（２）、両方からでも結構です。どうぞ。

○委員

開始時間に遅れてどうもすみませんでした。今のインスタグラムなのですが、フォロワーの目標値は9,838です。（事務局注：9,838はフェイスブック「いいね数」の目標値で、インスタグラムの目標値はフォロワー数3,000である。）さっきの同じページのところであれば、もうちょっと目標値が小さければ、その実績値でみんな納得しちゃうのですけれども、市役所や消防署の職員はすごい人数がいますが、一般の市民が活用して欲しいので、もうちょっと目標値を高くしていただきたいです。インスタグラムについて質問ですけれども、どなたが実際にやっているのですか、職員の方ですか。インスタグラムを使った広報は。

○市長公室 次長

市長公室です。広報戦略課の職員がインスタグラムを運営しています。

○委員

できるだけ若い人にやらせてもらって、自由にやらせてもらえば、フォロワーも増えてくるのです。若い人の目から、筑波大学も、私がやっているブログを学生にやらせたら、やっぱりその辺が活発で、おもしろいものになるのですね。どうしても我々の年代がやっても、余りあか抜けないので、ぜひその辺も工夫して、そうすれば、9,000よりもはるかに高い数字が出てくるはずなので、御検討をよろ

しく願います。

○座長

よろしく願います。ほかにございますでしょうか。

(2) の地方創生交付金事業について、私から質問してもいいですか。資料 2-1 の一番上の③-1-1 の見方、特に指標はないのですけれども、進捗しているかどうかというのはどういうふうに評価したというか、見たらいいのかというのは、ちょっとわかりにくいです。その上で総合評価が D となっているのは意味がよくわかりません。

○政策イノベーション部 次長

政策イノベーション部です。こちらの事業につきましては、茨城県と一緒に交付金の申請をしているものですから、指標は持っていないのですけれども、近年の生活支援ロボットの普及状況、貸出しているものを見ますと、平成 27 年度から開始しておりまして、平成 29 年度が 7 事業者、平成 30 年度が 2 事業者、令和元年度が 3 事業者となっております、少し伸び悩みがあるために、有効性、評価については D とし、今後さらに P R 等を進めていかなければいけないと評価をしております。

○座長

今の説明でその意味がわかりました。ありがとうございます。

これもつくばの強みですので、ぜひ看板にさせていただきたいというふうに思います。

ほかにございますか。はい、どうぞ。

○委員

合計特殊出生率の K P I (数値目標) のところで、なかなか伸び悩んでいるというお話がありまして、今後不妊治療に関するところの支援というのも充実させていくというような話がありました。そこも、もちろんすごく大事なところかなと思うのですけれども、厚生労働省あたりが調査結果として発表している数字で、第 2 子以降の出生率というか、出生する割合と父親の家事、育児時間とがす

ごくきれいに相関しているというデータも大分前から出ていて、皆さんも御覧になったことがあるかなと思うのですけれども、なかなかゼロを1にするというのは難しい、もう子どもを持たないそういう選択をされた方に向けて1人目どうですかというのはなかなか難しいかなと思うのですけれども、1人目の子育てを楽しんでいただいた上で、じゃあ2人目、大体皆さん御希望の出生数というか、大体2人ないし3人を挙げる方が割合としてはかなり多いのかなと思うのですが、なぜ希望に至らないかといったところで、もちろん経済的なところというのは大きいのですけれども、その中で、やはり父親の育児、家事時間というのが多ければ多いほど第2子以降をもうける確率というのが高まるというのを確実に言えるということはもうデータとして出ているので、例えば、つくば市で取り組まれている保健センターの初妊婦さん向けの講座の中に、父親向けの家事、育児に関する講座の時間を設けていただくとか、できるところからぜひメスを入れていただきたいなというふうに思います。これは一つの提案です。

○座長

ありがとうございます。事業全体通じてかなり進んでいる部分と、なかなか進まないというところが逆にいうとよく見えてきたのですが、今までどおりのやり方ではなくて、ほかの事業と絡めながら進めていかないと、遅れを戻すことは難しいのじゃないかということも見えてきて、ただいまの御提案もそうだと思うのですが、この辺について、何か今後の戦略プランも含めまして、難題といいますか、そういう課題について考えていることという意見もございましたら、いかがでしょうか。難しいですか。どうぞ。

○保健福祉部 次長

保健福祉部です。どうも御提案ありがとうございます。実は、保健センターで父親に参加していただく育児についての講座をやっておりますので、全然やっていないということではございません。それを今後拡大していくのかなというところの御提案というふうに理解しております。

ただ、家事、育児という点で、育児のほうは保健センターでやらせていただいているのですが、家事というところになると、こちらとしてもなかなか難しいというところがあるのかなというところを含めて、今後検討させていただくということ

で御理解いただきたいと思っております。

○座長

よろしいですか。

○委員

健康増進課とかそういった部署では、家事というところに切り込むのは難しいのかもしれないのですが、例えば、男女共同参画室あたりとコラボをされるとか、そういった方法で何らか、効率よく進めていただけるといいのかなと思っております。

○座長

どうぞ。

○毛塚副市長

市民部に確認ですけれども、男女共同参画室でそういった事業をやっていますよね。

○市民部 次長

市民部でございます。男女共同参画室では、例えば男性のための料理教室などを実践して、なるべく男性が家庭内の時間をとる、家事をするというようなことも進めております。ただ、なかなか男女の若年層、それから男性の参加が、いろいろなセミナー・講座をやっているのですが、なかなか進まないということもございまして、例えば、「男性のための」とか、「夫婦ともに」とか、そういうような冠をつけた事業をなるべく多く進めていくような考えで、次年度以降取り組んでいこうということを今検討しているところでございます。

○座長

よろしいでしょうか、こういう問題を次に、次年度からの戦略プランにどういうふうにつなげていくかについては、後ほどまた御議論いただければと思いますけれども、よろしいでしょうか。

○委員

男女共同参画室が頑張ってそういう企画をされているのはわかっているのですが、すけれども、なかなか企画をしてただ来るのを待つというのは本当に難しいことだなと思っています。保健センターで開催されているクラスには、結構、お父さんや、これから父親になろうという人が参加されている、そういう集まっている場に出向くというような、そういった共同の仕方というのも今後は模索されるといいのかなと思います。

○座長

ありがとうございました。ほかにございますか。

単年度もそうですけれども、この5年間を通じて、非常に難しい問題と、かなり進めることができる問題というのが、ある意味明瞭に見えてきたわけですが、それをどう次に克服していくかについては、今までと同じようなやり方ではだめで、やっぱりいろいろな事業を連携させながら、従来でいうと、垣根を乗り越えてやっていかないといけないということも見えてきたと思うのですが、それについては、後ほど戦略プラン等についても御議論いただくとしまして、特に、この5年間あるいは単年度でもいいのですが、難しかったと思われるような点について御意見等ございますでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございました。それでは、（１）と（２）の議題について御報告いただいて御質疑いただきました。ありがとうございました。

（３）第２期つくば市戦略プランについて

○座長

それらと密接に関連いたしますが、それでは、どう次につなげていくかという意味で、議題の（３）第２期つくば市戦略プランについて、特に関係性をわかるように御説明いただきたいと思います。

では、事務局によりしくお願いいたします。

○事務局 （資料３－１から３－５までの概要を説明）

○座長

ありがとうございました。

こちらも大部な資料ですが、特に、この5年間で出てきた課題について新しい戦略プラン、未来構想にどう引き継がれていくかという点について、わかりやすく御説明いただいたと思いますが、全体につきまして、御意見とかあるいは御質問等ありましたら、どうぞ。

○委員

第2期つくば市戦略プランを拝見させていただいて、提案といいますか、お願いなのですが、先ほど、つくばで学ぶ大学生、大学院生が就職できるような会社、企業をというお話がありました。若者がつくば市に定着するために最も必要なのは産業振興だと思います。

先ほど、子どもを安心して産み育てられる社会というお話もありましたけれども、安心して働いて、収入も安定していてというのは、やはり子育てにおいても非常に重要なポイントだと思います。そういった視点で、具体的に、つくば市ではどのような施策を考えているのかということを念頭に、この資料3-2「第2期つくば市戦略プラン案」というのを拝見しますと、IVの「市民のために科学技術を生かすまち」というところが、やはりこの施策として、地域、産業人材の確保、定着の推進と地元企業等の新たなチャレンジの支援ということになっておりますので、72ページから76ページあたりにそういったことが書いてあるのだろうと期待して読み始めますと、73ページの「地域産業人材の確保定着の推進」のメインはマッチングということになっておりまして、自社の強みや魅力を求職者へ効果的にPRする方法、手法となっているのですけれども、私は、できれば、やはりここは今、コロナでテレワークですとかオンライン会議システムを活用して、いつでも、どこでも人が接触しなくても会議ができる、あるいはグループウェアを使って自宅にいても仕事が止まらない、学びを止めないというのも今、文部科学省や経済産業省で推進していらっしゃいますギガスクール構想というのも、令和元年度の補正予算で1,300億ですか、予算がついたところですが、ITを活用して、ビジネスにもっとテクノロジーを活用するといった視点がすごい必要だと思うのですけれども、科学のまちつくばの会社、事業者がITを今、日常のものとして活用しているかということ、まだまだファクスや電話でうまく使いこなせて

いないのじゃないかなと思うのです。

そういった支援を、例えば、つくば市でもっとしていただく。助成金がいろいろあるのは存じ上げているのですけれども、実際、条件が厳し過ぎて、本当に助成していただいて支援していただく気持ちがあるのかなと思うぐらい、なかなか取得が難しいです。アフターコロナといわれますけれども、今、リーマンショック以上に社会構造が変わって、お店に食べに来てくれないんだったらウーバーイーツで届けに行くといったぐらいの大きな変化が必要な時代なので、ぜひこのタイミングで第2期つくば市戦略プランを立てるのであれば、求職者と企業のマッチングというよりは、もっと今ある企業が変革していくために必要なサポートを何かお願いしたいと思います。

74ページの「地元企業等の新たなチャレンジの支援」というのも、創業支援に非常に重きを置かれておりまして、それも大事なのですけれども、今もう既に育った企業をさらに発展させて、つくばに大学生、大学院生、博士号を持っている方たちが就職できるような企業をサポートするような施策といったものを考えていただけないものでしょうか、というのが私が一番申し上げたいことです。よろしくをお願いします。

○座長

大変重要な御提案、御指摘だと思いますが、いいですか、もし何かありましたら。

○毛塚副市長

御指摘ありがとうございます。まさに、つくばにとって必要な政策だと思っています。数字としましても、有効求人倍率で今つくば市2.6ほどありまして、既存の企業が効率化など、できることはやっていかないと、人手は幾らあっても足りない、まさに今回のコロナというのは変革の、事業も含めてチャンスだと思っています。この戦略プランの中には、なかなか項目として盛り込めていないのですが、今同時並行で産業戦略というものをつくっているところで、私が座長をやっているのですが、そういったところで既存の企業のいわゆるDXということですかね、デジタルトランスフォーメーションを行うようなIT技術の導入などはそこで盛り込んでいければと思っています。ありがとうございました。

○座長

どうぞ。

○委員

今、委員が言ったとおりだと思います。やっぱり市役所側でどこにどういう企業が、何のためにどの程度のところまでの動きをしているのか、こういうことは把握する必要があると思います。その担当は、3人から5人とか専属に作っていないと、委員が言っているようなところへアピールできません。しっかりと市役所で掌握していないと、企業がどういう目的でどういうレベルまで来ているか、それも自動車業界なんかは、今作っている部品がほとんどいなくなるのではないかとされているぐらいで、つくばの中には無人の自動車の会社が入ってきているわけですから、そういうことをどんどんPRをしながら若い人を引き込んで、仕事として具体的につかむことができるというふうなことまでわかっていくということは、つくば市役所の中で、やっぱり優秀な人間達が5人ぐらいは班を作ってやっていかないとできないのではないかというふうに思います。

○座長

ほかに、御提案ありますか。

○委員

どこの部分になるのかわからないのですが、22ページの観光とかそういったことにも関わってくるのか、それから、今お話に出たコロナの関係等々で在宅の仕事、テレワークであったり、それから今まさしくおっしゃっていた、食べ物を食べに行くのは危険だからウーバーイーツだとか、出前館でとろうかというような、本当に何か人の生活そのものが変わっていきこうという中で、私なんかも、一つ普段思っているのは、今、eスポーツというのが非常にささやかれていまして、やはり生で見る本当の競技スポーツ、例えば、サッカーだったり野球だったりというようなこと、そういったものがこういう事態になると開催できないというようなことがあるのですが、eスポーツ等々であれば、こういうような状況でも、バーチャルの中でやっているものですからいろいろできると思います。それからeスポーツそのもののマーケットが非常に大きくて賞金なんかも、一昨年ぐらい

、16歳か17歳のアメリカの高校生が2億円、3億円をとる時代ですから、しかも、私どもつくばというところは、つくばエクスプレスでその聖地に近いような、秋葉原とこれだけの距離にいますので、非常に地の利があると思うのですけれども、県の主導で水戸市にそういう聖地を作るみたいなことをやっていますけれども、むしろ我々のほうが優位性があるのだらうというふうに思いますので、そういうeスポーツ等々のことも、これ一つは産業振興にも関わることだろうと思うので、こういったことも何か取り入れていただくようなことを考えていただければというふうに思います。

リアルなスポーツだけがスポーツじゃない時代に来ていますので、繰り返しになりますけれども、テレワークであったり、出前をとるもの、いわゆる食べに行かないというようなことと重なってくるようなところもあるかと思うので、こういったものも、どこかに少し入れていただくような余地がないものかなというふうに考えます。

○座長

ありがとうございます。

これについても、よろしくお願いします。

○毛塚副市長

担当がないので私から回答したいと思います。

今年、茨城国体の種目、もちろん本種目ではないのですが、つくばで初めてeスポーツの大会が開催されまして、それによって大分、市内でも機運が高まったものと思っています。現在、県と協力しながら、まず、県のeスポーツの協議会と一緒に入りながら構想を進めていくのですが、動くためには市のほうで担当を決める必要があると思っていますので、市役所の中でどの部署がやるかというのをしっかり決めて検討していきたいと思っています。

○座長

ほかにございますか。

過去6年間で、懸案だったことは新しいプランでどういうふうに取り組んでいこうかということが出ているかと思いますが、御提案等を含めてありましたら。

どうぞ。

○委員

A 3 判の資料（資料 3－5 補足資料 第 2 期つくば市戦略プランの概要）ですが、どうしてこういうふうになったのか、（審議会を）お休みしていてわかっていないのですけれども、右側の主要プロジェクトの例というところで、Ⅲの「未来をつくる人が育つまち」のⅢ－3 のところの主要プロジェクトの例で、「性的多様性への意識の醸成」というふうに書かれているのですけれども、これは確かに多様性を生かす、多様性の理解を深めるという意図で書かれていると思うのですが、あくまでも、例だからいいのかもしれないのですけれども、ただ、書き方としては、ちょっと特筆している感じがしています。新しい言葉ではないのですけれども、私が今提案するとしたら、ここを例えば、インクルーシブデザインの講演会とか、インクルーシブデザインというのは、皆さん御存知だと思うのですけれども、いろいろな多様性のある人がみんなで入り混じって新しいものを生み出していく、その過程でお互いの理解も深まり、気づかなかった新しい知識とか、知恵とか知というものが作られるということになるのですけれども、もし、どうしても性的多様性が大事という意図がないのであれば、もっと多様性全体を包括するようなインクルーシブデザインの理解にしておくとか、何かもっと全体を書かれたほうがすてきかなと思ひまして、提案させていただければと思ひました。

○座長

ありがとうございました。ここはかなり省略されているのかもしれませんが、資料の 3－2、この大部のプラン案のどこに該当するのかも含めてお願いします。

○事務局

今御指摘いただいた部分につきましては、資料の 3－2 ですと 68 ページになります。今回、A 3 判につきましては、本当にスペースが小さいこともありまして、主要プロジェクトの中で、表題から一番わかりやすい例として出させていただいているのですが、こちらにつきましては、一番上にありますとおり、個別施策

の「多様性をいかした社会の推進」ということで、海外、外国人の方との対応も含めてプロジェクトとして①から④までは設定されています。

今回、御指摘いただいた部分がこの一番下の④になりまして、「男女共同参画」の下に、御指摘を受けた「性的多様性に関する意識醸成のための広報、啓発の充実」という箇所になります。

○座長

そうだと思うのですが、この表現についてはどうですか。これセットされているのですか。このA3判の書き方が、ちょっと誤解を招くのかなというように思います。どうぞ。

○委員

68ページを見た上で発言したのですけれども、68ページの中には、多様性というのが障害者も入っていないし、いろいろ実は気になる部分はございまして、このページをずっと最後までいくと、ユニバーサルデザイン基本方針ですとか関連計画がありますので、こういうことを踏まえてくると、ここで言葉としてインクルーシブデザインが入っていないと、ちょっと足りないのかなと思ひまして、68ページも見た上で意見を言いました。もし、68ページがフィックスでないのならば、そういう考え方を入れるといいかなと思います。つまりこの68ページは多様性と言いながら、障害のある方も社会的弱者の方も漏れていると思ひましたので、このような発言になった次第です。

○政策イノベーション部長

結論から言いますと、この戦略プランはもう既に未来構想等審議会で版がセットされておりまして、19日の議会の議決を前提にした上で、本日、座長から答申を市長に渡しているところですので、修正は残念ながらできません。

あと、A3の資料は、今回わかりやすく説明するために、別途作成したのになりますけれども、今後、例えば、市民向けに戦略プランの内容をわかりやすく伝える機会というのがいろいろな場面であると思ひます。そのときには、表現ぶりについて工夫する余地は十分あるかと思ひますので、今いただいた意見を参考にさせていただきながら、戦略プラン本体はもう修正ができないのですけれども

、今後の対応について後で相談させていただければと思います。

○委員

わかりました。もっと早くに言えなくてすみませんでした。

○座長

ほかに御意見ございますか。

それでは、会議は午後5時までとなりますので、まだ、御意見あるかと思うのですが、ありがとうございました。一応これで（３）の議題については終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

（４）その他

○座長

これで、今日の議事は全て終了しました。その他について事務局等からございますか。よろしいですか。

３ 閉会

○座長

それでは、ありがとうございました。これで５年間にわたりましたこの委員会、最終回を閉じさせていただきます。長らく御協力いただきましてありがとうございました。

いろいろ出て来た問題が次の戦略プラン、未来構想等にうまく作られているのだと思います。次の組織もぜひ期待したいと思います。

それでは、以上で終了させていただきます。ありがとうございました。